

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書

令和 3 年 1 月 1 8 日 (月) 作成

校長 「小林 大」

記述者 職名 (教頭) 「 青柳 俊也 」

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- (1) 豊かな人間性の育成
- (2) 確かな学力を育む指導と評価
- (3) 体力向上と健康安全意識の向上
- (4) 愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- (5) 安全安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

1 全体評価

・肯定的な回答が 51 項目中 45 項目で 85%以上、そのうち 41 項目は 90%以上であった。昨年度よりも肯定的な回答が高くなっていて、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが見てとれる。

<本校のオリジナル項目>

- I ⑧「多忙化解消のための取組の成果 (学校)」 (79.1%)
- II ⑩「多忙化解消のための業務改善 (個人)」 (91.3%)
- III ⑨「習得した知識・技能を活用する授業」 (100.0%)
 - ⑩「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」 (85.0%)
- IV ⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」 (95.2%)
- VI ③「読書に積極的に取り組む指導」 (95.7%)
 - ④「学校行事に進んで取り組む指導」 (100.0%)
 - ⑤「強化週間等を活かした個に応じた指導」 (95.6%)
 - ⑥「生徒が発表活動に主体的に取り組む指導」 (100.0%)
 - ⑦「小中連携を意識した教育活動」 (72.7%)
 - ⑧「O P P シートの活用」 (94.1%)

<肯定的回答率 85%を下回る項目> ※現状の課題となるもの

- I ⑧「多忙化解消のための取組の成果 (学校)」 (79.1%)
- II ⑨「校務支援システムの活用」 (83.3%)
- V ①「地域人材や施設を活用した教育活動」 (68.1%)
 - ②「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」 (77.2%)
- VI ②「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施」 (80.9%)
 - ⑦「小中連携を意識した教育活動」 (72.7%)

<肯定的な回答が、昨年度に比べて 10 ポイント以上の差があった項目>

- I ⑧「多忙化解消のための取組の成果」 (68.0%→79.1%)
 - ②「危機管理マニュアルの理解」 (76.0%→87.5%)
- II ⑧「校内研究への主体的な関わり」 (88.0%→100%)
- III ④「個に配慮した授業」 (72.2%→90.0%)
 - ⑧「宿題や家庭学習に対する指導」 (83.3%→94.4%)
- IV ③「生き方教育 (キャリア教育・進路指導)」 (95.0%→85.0%)
 - ⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」 (73.7%→95.2%)
- V ②「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」 (63.6%→77.2%)
 - ⑦「保護者の学習指導や生活指導への協力」 (88.0%→100%)
- VI ②「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施」 (100%→80.9%)
 - ⑦「小中連携を意識した教育活動」 (100%→72.7%)

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・全8項目のうち7項目で肯定的な回答が85%以上（うち5項目は100%）である。
- ・「多忙化解消のための取組の成果」（肯定的な回答）79.1%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	あなたの学校は、多忙化解消のための取組で成果が表れてきている。	今年度	8.3	70.8	20.8	0.0	79.1
		昨年度	16.0	52.0	28.0	4.0	68.0

※「生徒に向き合う時間」の確保のためにも、意識の改革や実質的な対策が必要である。

（課題・意見）

⑧「多忙化解消のための取組の成果」について

- ・取組が行われていない。
- ・個人ごとの仕事量も違うので。

改善策

- ・毎週行われている「校内企画委員会」で「業務改善委員会」を行い、職員の多忙化解消や業務改善について話し合う機会をもつ。また、校務分掌にもしっかりと位置づける。
- ・提案を効率化し、会議等の効率化を図る。連絡事項についてはパソコンの掲示板を利用する。
- ・行事が終わるごとに振り返りをし、PDCAサイクルを確立する。3年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化、業務の効率化を図る。
- ・部活動については、市のガイドラインに則り、平日1日（月曜を基本）と土日のどちらかを原則休むようにする。年間指導計画を提出してもらい、適正な運営状況の点検および指導を管理職が行う。他校との情報交換を行い、朝練習の在り方についても検討していく。
- ・教職員の意識改革を喚起していく。教職員が余暇などを利用して様々な体験をし、家庭生活を豊かにすることで、それが生徒へと還元されることを考えていく。
- ・PTA組織を有効に使いながら、学校運営を支えてくれる地域人材を探す。また、職場体験学習においても、地域で協力してくれる職場をデータベースとして年々更新していく。
- ・「きずなの日」を設け、生徒と触れ合う時間をつくり出す。この日は、部活動や会議等を行わない。
- ・職員一人一人と面談を行い、「多忙感」を感じる場面を聞き取るようにする。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・10項目中9項目で肯定的な回答が85%以上である。
- ・「危機管理マニュアルの理解」は、肯定的な回答の割合が、昨年度より11.5ポイント高くなっている。
- ・「校務支援システムの活用」は、今年度から取り入れられた項目である。

番号	質問内容	A率	B率	C率	D率	A+B
9	あなたは校務支援システムを十分活用できていますか。	20.8	62.5	16.7	0.0	83.3

（課題・意見）

②「危機管理マニュアルの理解」について

- ・しっかり把握できているとは言えない。

⑨「校務支援システムの活用」について

- ・活用するところまで至っていない。

⑩「多忙化解消のための業務改善」について

- ・意識できていません。

改善策

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症に対する危機意識という面において、昨年度より意識の高まりはあったものの、「危機管理マニュアル」の周知という面においては、まだ不十分だったように思う。年度当初の職員会議で、時間をかけて共通理解を図る必要がある。また、多発している自然災害に対しても、当事者意識をもつよう喚起していきたい。
- ・多忙化解消の業務改善に関しては、保護者や地域の理解も得られるような教育活動を行っていく必要がある。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

- ・全10項目で肯定的な回答が85%以上（うち9項目は90%以上）である。
- ・「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」において、肯定的な回答の割合が比較的低くなっている。

【授業について】

- ・「個に配慮した授業」（肯定的な回答）90.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	本校	10.0	80.0	10.0	0.0	90.0
		市	34.0	56.7	9.2	0.0	90.7
		RI 本校	22.2	50.0	22.2	5.6	72.2

（生徒アンケートから）

- ・「学校の授業は楽しいか」（肯定的な回答）88.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	31.4	56.8	9.5	2.3	88.2
		1年	43.9	50.0	4.9	1.2	93.9
		2年	27.6	55.2	13.8	3.4	82.8
		3年	17.6	70.6	9.8	2.0	88.2
		市	33.1	53.7	10.8	2.5	86.8

- ・「先生はよく勉強を教えてくれるか」（肯定的な回答）98.6%

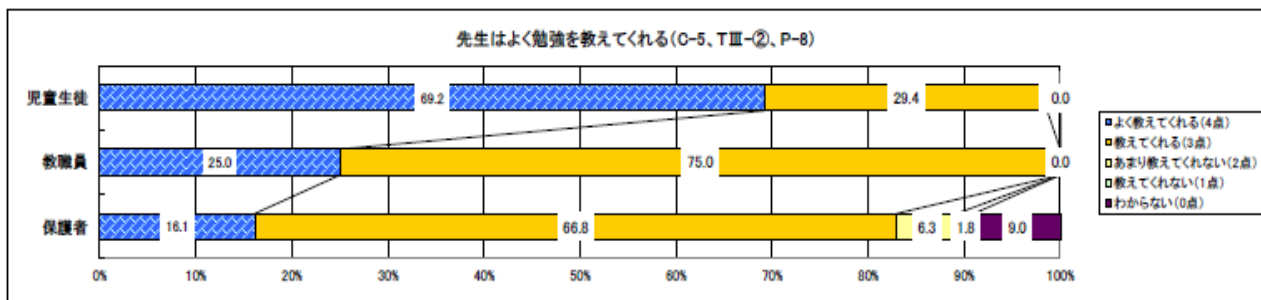
番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	先生はよく勉強を教えてください。 A よく教えてくれる B 教えてくれる C あまり教えてくれない D 教えてくれない	本校	69.2	29.4	1.4	0.0	98.6
		1年	72.0	25.6	2.4	0.0	97.6
		2年	64.8	34.1	1.1	0.0	98.9
		3年	72.5	27.5	0.0	0.0	100
		市	62.9	35.6	1.3	0.2	98.5

（保護者アンケートから）

- ・「学校は熱心に授業に取り組んでいるか」（肯定的な回答）82.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
8	学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	16.1	66.8	6.3	1.8	9.0	82.9
		1年	13.4	64.6	7.3	2.4	12.2	78.0
		2年	13.6	72.7	5.7	2.3	5.7	86.3
		3年	24.5	60.4	5.7	0.0	9.4	84.9
		市	13.1	69.6	7.4	0.9	9.0	82.7

＜生徒・教職員・保護者との相関＞



(教職員アンケートから)

- ・「質問や発言が出てくる授業を行っているか」(肯定的な回答) 95.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	本校	30.0	65.0	5.0	0.0	95.0
		市	38.1	52.5	9.4	0.0	90.6
		R1 本校	55.6	38.9	5.6	0.0	94.5

(生徒アンケートから)

- ・「人前でしっかりと自分の意見を言うことができるか」(肯定的な回答) 63.3%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
9	人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。 A よくする B する C あまりしない D しない	本校	23.5	39.8	33.5	3.2	63.3
		1年	19.5	37.8	42.7	0.0	57.3
		2年	26.1	36.4	31.8	5.7	62.5
		3年	25.5	49.0	21.6	3.9	74.5
		市	30.5	41.4	24.4	3.6	71.9

(課題・意見)

⑩「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」について

- ・今年度は、話し合い活動ができていません。
- ・わからない。

改善策

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、話し合い活動など多くの場面に支障を来している。授業の遅れを取り戻す必要もあり、本来であれば時間をかけじっくり考えさせたい場面でも、そうした時間を取ることが難しい状況にある。また、話し合いを通じた考え方の交流や協働という面においても、実施することを躊躇してしまう実情である。
- ・「質問や発言が出てくる授業を行っているか」については、市と比較して肯定的な回答が上回っているが、「人前でしっかりと自分の意見を言うことができるか」については、やや下回っている。このことから、自分の意見を人に伝える「表現する力」という面に、課題があると考えられる。今後、授業中の発言や様々な取組において、多くの生徒が発言できる場面の設定と、一人一人の発言を認めたり、たとえ間違っていたとしても安心して発言できる雰囲気やそうした環境づくりを意識し共通理解のもとに教育活動を進めていきたい。
- ・本校の校内研究では、昨年度に引き続き、「やまなしスタンダード」の中の振り返りについて、OPPシートを活用した授業に取り組んでいる。今後もPDCAサイクルを念頭に、見直しを繰り返し、さらに学力向上を目指していきたい。

Ⅳ 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

- ・全7項目で肯定的な回答が85%以上である。
- ・「生き方教育(キャリア教育・進路指導など)」において、肯定的な回答の割合が比較的低くなっている。

【問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応について】

(教職員アンケートから)

- ・「問題行動の早期発見・早期対応ができていないか」(肯定的な回答) 95.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができていない。(平均値:H29 3.2、H30 3.5)	本校	47.6	47.6	0.0	4.8	95.2
		市	40.8	53.9	4.6	0.7	94.7
		R1 本校	47.8	43.5	8.7	0.0	91.3

(生徒アンケートから)

- ・「学校は楽しいか」(肯定的な回答率) 93.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	学校は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	全校	47.7	45.5	5.4	1.4	93.2
		1年	54.9	39.0	6.1	0.0	93.9
		2年	39.3	51.7	6.7	2.2	91.0
		3年	51.0	45.1	2.0	2.0	96.1
		市	53.8	39.2	5.2	1.8	93.0

【相談できる友達・先生について】

- ・「いろいろなことを相談できる友達はいるか」 「いない」 0.9% 2人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	いろいろなことを相談できる友達はいますか。 A たくさんいる B いる C あまりいない D いない	全校	44.6	47.7	6.8	0.9	92.3
		1年	45.1	43.9	11.0	0.0	89.0
		2年	41.6	52.8	4.5	1.1	94.4
		3年	49.0	45.1	3.9	2.0	94.1
		市	46.0	44.3	7.8	1.9	90.3

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる友だちがいることがわかる。しかし、全校で2人の生徒が「いない」と答えている。

- ・「困ったことがあったら相談できる先生はいるか」 「いない」 2.3% 5人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
11	困ったことがあったら相談できる先生はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	73.3		24.4	2.3	
		1年	74.4		23.2	2.4	
		2年	67.4		29.2	3.4	
		3年	82.0		18.0	0.0	
		市	73.6		22.3	4.1	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる先生がいることがわかる。また、全ての学年で、甲斐市の平均を上回っている。しかし、全校で5人の生徒が「いない」と答えている。

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんには、相談できる友達がいるか」 「いない」 1.8% 4人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
3	お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	74.3		11.9	1.8	11.9
		1年	66.3		18.8	1.3	13.8
		2年	77.9		7.0	2.3	12.8
		3年	80.8		9.6	1.9	7.7
		市	76.3		9.5	2.1	12.1

※この回答から、およそ四分の三の保護者が「子どもには相談できる友達がいる」と考えていることがわかる。しかし、「いない」と答えている保護者が4人、「わからない」という保護者が26人いる。

- ・「お子さんのことで、相談できる先生がいるか」 「いない」 9.0% 20人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
10	お子さんのことで、相談できる先生がいいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	65.6		15.8	9.0	9.5
		1年	60.0		18.8	11.3	10.0
		2年	68.2		15.9	9.1	6.8
		3年	69.8		11.3	5.7	13.2
		市	63.2		19.7	8.8	8.4

※この回答から、およそ三分の二の保護者が「相談できる先生がいる」と考えている。

	(課題・意見) ③「生き方教育(キャリア教育・進路指導など)」 ・経験があまりない。 ⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」について ・学年として継続した指導がなかなかできていない。																												
改善策	【いじめの早期発見・早期対応について】 ・「いじめは、どの学級でも起こりうるものであり、誰もが加害者にも被害者にもなり得る。」という認識をもち、校長のリーダーシップのもと、学校全体で迅速かつ組織的に対応する。 ・「竜王北中学校いじめ防止基本方針」の見直しを定期的に行い、その方針に従いながら取り組んでいく。 ・毎週行っている「生徒指導部会」において「いじめ防止対策委員会」を行い、生徒の情報交換及び認知されたいじめの解決に向けた方策を検討した。 ・学年会議や職員会議等でも生徒の情報交換を行い、担任だけではなく、組織的な対応をしていく。 ・重大事態発生時には、校内委員（校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、不登校担当、養護教諭、当該学級担任、学年主任）だけでなく、校外委員（スクールカウンセラー、学校評議員、PTA役員、関係機関）も必要に応じて招集し、学校設置者の指導・助言のもとに対応にあたる。 ・未然防止の取組として、「学級経営」「道徳を含めた授業」「学校行事」「生徒会活動」等、学校でのあらゆる教育活動全般を通して、互いに思いやる関係づくりを全校挙げて行う。 ・自治活動として、生徒会が主体となり「STOP いじめ宣言」が本年度行われている。こうした、生徒から発せられる取組も、活発に行っていきたい。 ・早期発見の取組として、「アンケート調査」「Q-U検査」「二者懇談」等を実施することで、小さな変化も見逃さないように日々の観察を丁寧に行っていく。 【不登校生徒への対応について】 ・不登校生徒を出さないための取組として、「講演会」「道徳教育の充実」「中一ギャップ解消のための小中連携」「生徒会活動の充実」「いじめ等調査の定期的実施」等をこれからも継続して行っていく。 ・不登校生徒への対応の取組として、「生徒理解部会を中心とした組織的対応」「SC・SSW・サポートルーム・オアクルーム・児童相談所等の関係機関との連携」をこれからもきめ細かに行っていく。また、必要に応じて「ケース会議」を開き、個々の生徒に対する対応策を協議し、その対応を丁寧に行っていく。教室に戻ることを目標とするが、担任でなくても誰かと繋がっていることに重点を置き、居場所づくりに努めていきたい。 【相談できる友達・先生について】 ・相談できる友達や先生がいない、と回答する生徒が少数ではあるが存在する。このことを職員一人一人が重く受けとめ、学校として、日頃の生徒との関わりを見つめ直し、よりよい関係づくりを今後も地道に進めていく。 ・お子さんのことで相談できる先生がいない、と回答する保護者が数名いる。子どもの健やかな成長のためには、家庭と学校の連携が必要である。教師から気軽に保護者の方に声をかけ、相談しやすい環境づくりに努めていく。また、生徒と向き合い、保護者とのコミュニケーションを常にとることのできる、そんなゆとりを生み出せる職場づくりをしていきたい。																												
Ⅴ 地域との連携について																													
達成状況	・8項目中6項目で肯定的な回答が85%以上である。 ・「地域人材や施設を活用した教育活動」については、肯定的な回答が全項目中最も低かったが、今年度は難しい状況にあった。 ・「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」についても、肯定的な回答が低かったが、昨年度と比較して、10ポイント以上向上している。 (教職員アンケートから) ・「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」（肯定的な回答）77.2% <table><tr><th>番号</th><th>質問内容</th><th></th><th>A率</th><th>B率</th><th>C率</th><th>D率</th><th>A+B</th></tr><tr><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。</td><td>本校</td><td>22.7</td><td>54.5</td><td>13.6</td><td>9.1</td><td>77.2</td></tr><tr><td>市</td><td>21.4</td><td>60.4</td><td>11.0</td><td>7.1</td><td>81.8</td></tr><tr><td>R1 本校</td><td>13.6</td><td>50.0</td><td>27.3</td><td>9.1</td><td>63.6</td></tr></table>	番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B	2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	本校	22.7	54.5	13.6	9.1	77.2	市	21.4	60.4	11.0	7.1	81.8	R1 本校	13.6	50.0	27.3	9.1	63.6
番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B																						
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	本校	22.7	54.5	13.6	9.1	77.2																						
		市	21.4	60.4	11.0	7.1	81.8																						
		R1 本校	13.6	50.0	27.3	9.1	63.6																						

	(課題・意見) ①「地域人材や施設を活用した教育活動」について ・今年度は全くできていないので。 ・活用していない。 ・経験があまりない。 ・今年度、コロナ禍でもあり、なかなかできなかった。
改善策	・例年多くの保護者の方にご協力いただいている強歩大会や、地域の方々との交流の場となっているPTAバザーが、中止を余儀なくされた。PTA総会は紙面決議に、授業参観も密を避けて行わなかった。しかし、このようなコロナ禍ではあるが、保護者や地域の方との交流の機会を模索していきたいと考える。教育の場を学校内に閉ざすことなく、常に最善の方法を考えていきたい。 ・この学校評価は、保護者の学校に対する考えや評価を知る大切な機会である。それ故に、学校の果たすべき役割を改めて考える機会としたい。PTA学校委員会や学校関係者評価委員会等で出される意見をしっかり受け止め、学校に関係する様々な機関や地域の方々と、共に考え共に歩んでいきたい。 ・これからの学校には、学校・地域・保護者が一体となって子どもの成長を支えていく「地域とともにある学校」という視点が必要である。中学生のこの時期に、多くの大人との出会いの場を設け、多様な体験を通してさまざまな価値観と出会うことが、豊かな心の育成につながる。また、特色ある学校づくりの観点からも、地域の資源(人・物・歴史や地理の特性など)を生かした「社会に開かれた教育課程」が求められている。こうした点を教職員全員が認識し、各教科や総合・特別活動の各分野で、積極的に地域人材や施設の活用を図っていきたい。このことは、今後国全体で推進していく「コミュニティスクール」への移行を考えたときにも、大切な視点である。
Ⅵ 学校の特徴に関して	
達成状況	・8項目中6項目で肯定的な回答が85%以上である。 ・学校の特徴を生かした活動は、コロナ禍の中で今年度できないことが多かった。 (課題・意見) ②「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施」 ・例年はできているが、今年度は実施できなかった。 ⑦「小中連携を意識した教育活動」 ・今年度はほとんどできていないので。 ・取組は少ないと感じる。 ⑧「OPPシートの活用」 ・もう少し、上手に活用していきたい。
3 まとめ 〈成 果〉 ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、様々な行事等の中止や延期及び縮小、授業においても話し合い活動は控えなくてはならず、多くの取組が制限された。その中でも、生徒たちは様々な活動を前向きに捉えていた。中巨摩総体が中止となりその後県大会が行われることになったとき、学園祭体育部門が中止となり代わりの行事を行うこととなったとき、この状況をありがたいと代表の生徒は語った。また、生徒会は、毎日昼の放送を使って情報発信し、全校生徒のモチベーションの向上に努めることができた。職員は、生徒の笑顔のために、行事等の実施に向けて力を尽くした。 ・例年行われている行事を、改めて見直す機会とすることができた。また、今後どのようにすれば実施が可能となるか、全職員で考えていきたい。 〈課 題〉 ・多忙化改善の取組が進んでいるとは言えない。やはり、教職員が自身の生活を見直し、家庭生活を充実させることでやがて生徒へと質の高い教育を還元できる、という意識をもたせたい。 ・保護者の来校機会を工夫し、積極的に受け入れる態勢をつくっていきたい。 ・失われた生活習慣や本来あるべき歌声の再生に向けて、職員が一丸となって教育活動を進めていきたい。	